

平成20年12月
創刊号

自立からの風

だより

発行

兵庫県立身体障害者更生施設 自立生活訓練センター

兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9229



自立生活訓練センター 二〇〇八年 冬

自立生活訓練部長 松浦 剛

自立生活訓練センターは、障害を通して人生と向き合わざるを得ない利用者と、彼らに何ができるかを模索する職員との思いが錯綜する場でもあります。

“あなた達に、私の何が分かるというのか!”という言葉には、受け入れざるを得ない現実への怒りや悲しみが含まれています。障害による苦しみや悲しみは、他者には分かりづらいものとしてあります。でも、苦悩は分からなくても、彼らの言葉に耳を傾けることはできます。

利用者の側に踏み込むことで、見えていないものが見えることがあります。逆に、近づくことで、重い課題を背負うこともあるでしょう。しかし、傍観者では、利用者の発するものは何も見えて来ません。

利用者には利用者の思いがあります。施設のルールだけでは縛れないこともあるでしょう。しかし、利用者の言いなりになることが利用者本位ではありません。施設としての考え方をもち、支援内容や方向性を明確にすることが求められます。利用者の思いと、施設の考え方との調整こそ処遇の実態でしょう。

施設運営上の課題は収支を除けば二つあります。ひとつは、個別支援サイクルの充実です。個別支援計画は、サービス提供計画書であると同時に、サービスの

実践計画書でもあります。提供されるサービス内容と計画とが連動する考え方と仕組みがなくてはなりません。

他は、危機管理対策です。大切なのは、失敗情報をオープンにする組織体質作りです。失敗をあえてオープンにすることの意味は、情報を共有することで同じ過ちを繰り返さない強い組織風土を作り、結果的に利用者や職員さらには組織を守ることにあります。重要なのは、初期対応です。迅速に対応できるか否かで結果が違ってきます。踏み出す方向を間違えないことと、時期を逸しない対応がポイントです。そのためには、失敗情報を隠さず話し合える風通しのよさと、危機を感じるとる鋭い意識のアンテナが必要です。

富士山が美しいのは、その高さだけでなく、頂を支えるなどかな裾野の広がりにあるといわれます。総合リハビリテーションセンターが素晴らしいのは、医療機能という頂の高さだけではありません。医学リハビリテーションを核としながら、社会リハビリテーション、職業リハビリテーションという福祉機能のひろがりやと連携によるものでしょう。自立生活訓練センターは、医学リハや職業リハと家庭や職場などをつなぐ機能として利用者を支援し続けて行きたいと思っています。

平成20年度

自立生活訓練センター事業計画

自立生活訓練課の事業計画

1 利用者本位のサービス提供

- (1) あったかサポート実践運動の推進
- (2) 個別支援サイクルの実践・定着化
- (3) サービス評価事業（自己評価、第三者評価）に向けての取り組み
- (4) 当事者等の連携強化
- (5) 専門職種連絡会の参加
- (6) 障害者専門スーパーバイザー等による指導研修

2 「新サービス体系移行・充実3ヶ年戦略」の推進

- (1) 新サービス体系に基づく事業の実施
- ① 自立訓練（機能訓練）
- ② 施設入所支援

3 多様な福祉機能を持つ地域福祉拠点の構築

- (1) 相談支援事業
- (2) 介助犬及び聴導犬訓練・認定事業
- (3) ショートステイ事業（体験入所事業）
- (4) 神戸市単独生活サポート事業（自立支援ショートステイ）
- (5) 自動車運転習熟訓練

4 事業団らしさの発揮

- (1) 高次脳機能障害者支援に対するプログラムの提供
- (2) 総合リハビリテーションセンター相談機能のあり方検討
- (3) 障害者芸術文化活動事業の推進

5 職員資質の向上

- (1) 事業団憲章・職員倫理綱領の普及・定着化
- (2) 人材育成基本方針の推進
- (3) 人材育成基本方針に基づく研修等の実施
- (4) 研究成果発表等の発表機会の提供

6 経営基盤の確立

- (1) 障害施設の県費継ぎ足しゼロ作戦の推進
 - (2) 経営基盤の強化
 - (3) 自動車運転練習場の運営（再掲）
 - (4) 施設運営協議会の活用
 - (5) あり方検討会設置について
- ① 適正な施設入所定員と事業展開について
 - ② 自立訓練等の展開及びサービス内容の見直し
 - ③ 職員及び職種配置の検討
 - ④ 実施のための体制
 - ⑤ 収支のシミュレーション
 - ④ 自動車練習場の運営について
 - ⑤ その他

平成18年10月から、神戸市の委託を受け、自立生活訓練センター（以下、「訓練センター」という。）内に相談支援事業所として、開設いたしました。現在、2名の職員で行っています。対象の方は、神戸市（主に西区）に在住している方で身体

たまつあけほの 障害者地域生活支援センター



障害者、知的障害者、精神障害者及び障害児とその家族、及び介護者となつていきます。内容は、電話相談、来所相談、訪問相談、認定・更新調査、事業所調査などを行っています。どうぞよろしくお願ひします。

補助犬（介助犬・聴導犬）認定審査事業

訓練センターは、平成15年10月1日から身体障害者補助犬法に基づき、厚生労働大臣から介助犬・補助犬の認定法人の指定を受けている西日本では唯一の認定機関です。

訓練センターでは今までに、介助犬9頭、聴導犬2頭の補助犬認定をしてまいりました。補助犬は全国的にも数が少なく、平成19年12月末現在で、介助犬39頭、聴導犬13頭しか実働しておりません。

駅でも「盲導犬

だー」と言わ

れたり、興味

をもつて覗きに

くる利用客もい

ます。介助犬を



持ち、公共の場に出ることにより介助犬・聴導犬の活動を知ることが出来ます。今後のさらなる発展にも介助犬・聴導犬の利用者が広告となることも必要だと思ひます。

この度、平成20年7月28日に介助犬認定調査があり、新たな介助犬が登場しました。介助犬・聴導犬が仕事をしているときは、温かく遠くで見守つてあげて下さい。

訓練センタープログラム紹介

(利用者Aさん)

	9:00~9:15	1限目 9:45~10:30	2限目 10:45~11:30	3限目 13:15~14:00	4限目 14:15~15:00	5限目 15:15~16:00
月	朝 礼 ^{*1}	パソコン初級 ^{*2}	フリーウォーキング ^{*3}	リネン交換 ^{*4}	余暇教育 ^{*5}	訓練入浴 ^{*6}
火	朝 礼	学 習 ^{*7}	体育訓練 ^{*8}	高次脳支援 ^{*9}	ホームルーム ^{*10}	ST ^{*11}
水	朝 礼	教養講座Ⅰ ^{*12}	PT ^{*13}	体育訓練	体育訓練	訓練入浴
木	朝 礼	PT	OT ^{*14}	プール訓練	教養講座Ⅱ ^{*15}	ST
金	朝 礼	OT	パソコン初級	体育訓練	学 習	訓練入浴

*1 本日のスケジュールや連絡事項をお伝えします。その後、所外訓練の結果や週ごとにテーマを決めて利用者からの発表があります。

*2 今までパソコンに触れる機会が少なかった方を対象として基礎知識を習得してもらうことにより、パソコン操作のステップアップ訓練への足がかりを目標とする訓練です。

*3 車いす操作や立位歩行がまだ不慣れな方を対象として体育館や訓練センター周辺の走行等による移動能力向上を目的とする訓練です。

*4 毎週1回、自室ベッドのリネン交換を利用者主体で行います。

*5 利用者それぞれの目標設定に応じた達成方法について話し合いを重ねて実現を目指す、武庫川女子大学教授監修によるプログラムです。

*6 入浴時の着脱衣や洗体動作の訓練を重ねて入浴自立を目指す訓練です。

*7、8、9 次頁参照

*10 利用者と職員との意見交換の場です。集団生活をよりよくするためにおたがいに意見を出し合い、ルール作りをしています。毎月1回、実施します。

*11 障害により話すことや読み書きが不自由な方を対象とする言語療法です。リハビリ中央病院に専用訓練室があります。

*12 目的をともにする利用者がグループになり、達成にむけて意見交換していくプログラムです。現在活動中のグループは「家庭管理」「外出」「就労」です。

*13、14 次頁参照

*15 利用者に役立つ講義を職員や専門知識を持つ講師を招いて実施しています。最近では「住宅改修」「健康管理」「地域生活」をテーマに行いました。

訓練風景

利用者のみなさんの日常訓練風景を紹介します。



学習

学習（室）は、約70名の方が利用しています。主に国語・数学・英語が学習でき、頭のリハビリも兼ねています。利用者の目標（就職・進学）に合わせた学習ができるようにしています。



体育訓練

体力向上を目的とする訓練です。卓球やバスケットボールなどゲームを通して行う訓練やマシントレーニングにより体力づくりをするプログラムがあり、その人に合わせたメニューを用意しています。



高次脳支援訓練

病気や事故の後遺症として高次脳機能障害を有する利用者への支援プログラムです。今年度は「注意障害」、「遂行機能障害」に焦点を当てたプログラムを提供し、各々の課題の改善に努めています。



PT/OT

家庭復帰・社会復帰に向けてより実践的なリハビリを行っています。
PT訓練…屋外での歩行練習、車いす操作練習など
OT訓練…調理訓練、自助具の作製、高次脳集団プログラムなど



所外訓練

円滑に外出することが目的の訓練です。公共交通機関の利用や必要な介助依頼ができることを目標にしています。神戸駅や三宮駅周辺に定期的に外出して訓練を重ねています。



自動車運転訓練

新たに自動車運転免許取得を希望される障害者はもちろん、免許はあるが病気、けがのため運転をあきらめかけた方や以前のように運転できるか不安を持つ方について支援します。訓練センター内に専用コースを設け、一人ひとりの障害に応じて運転ができるよう特別な装置を装備、改造を施した障害者用自動車を配備しています。障害者の運転指導経験を積んだ指導員が対応しますので安全にそして安心して練習いただけます。

ハーフウェイハウスを利用して

利用者 宮崎 弘明

利用期間：平成20年9月8日

9月12日 5日間

1日の流れ
 6時30分 起床
 8時 朝食
 9時 プログラム開始。
 12時 昼食（食堂で摂取）
 13時 プログラム。
 16時 プログラム終了。
 17時30分 買い物。
 18時 夕食作り。夕食。
 20時 入浴。
 21時 洗濯。
 22時 就寝。

・訓練課の一日の流れだと16時で訓練が終了する。これが実際の仕事となると片道2時間の通勤も加

わりかなり疲れるやろうなあと思う。

・利用期間は22時に就寝し生活リズムはいいペースだが復職するともっと遅くなってくる。体力が持つか心配だ。

・朝・晩と自炊をした。（昼食は外食となる為食堂を利用）

釘付きのまな板を利用し、左手だけでも自炊出来た。今回で自炊することに自信が出来た。

・料理は作れたが、今後仕事を終えてから作るとなると仕事疲れで毎回作れるか不安がある。

実際は弁当屋を利用していいのかもいけない。掃除・洗濯は1日おきに行った。

◆担当支援員より：

復職した際通勤に時間がかかる為、職場近隣のマンションで単身生活の予定があります。その為、ハーフウェイハウスを利用し食事の準備や掃除・洗濯を単身で行えるか確認しました。

日常生活動作は滞りなく行え、自炊することで自信を持つて頂けたと思います。又、働いて生活していくことが今のペースでは厳しい状況であると実感し、社会復帰の意味をより現実的に考える機会になりました。

ハーフウェイハウス利用終了後は、夕方になるとすぐに横になり休憩し、自分に少し甘かった宮崎さんが周辺を歩き体力作りに励み1日の過ごし方に変化がみられました。

◆ハーフウェイハウスとは：

畳部屋と、左右の片麻痺に対応できるバリアフリー仕様の部屋が計5部屋あります。発症後、入院・訓練センター入所で一度も自宅に帰る機会がなかった方やその家族が実際にそこで自炊・入浴・掃除・洗濯を行いながら数日間過ごします。

今後の生活にハード・ソフト面を含め何が必要か、又、お互いの障害理解を深める機会となる場として利用して頂く部屋です。



僕にとっての「訓練センター」とは

元利用者 山本 健一

障害者であっても、自信を持って生きていく事ができると教えてくれた場所、それが僕にとっての「訓練センター」でした。

22歳の時、スノーボード中の転倒事故で頸椎を損傷、僕の心は暗然とし目の前の現実を受け入れる事ができず、毎日死ぬ事ばかり考えていました。

そんな僕にとって、中央病院含め訓練センターでの経験は、まさに「ゼロからの挑戦」でした。

食事から車いすに乗る事まで、

全て初めての経験でしたが、5年8ヶ月間に渡り、職員の方々の懇切で時には厳しいご指導のおかげで、ADLから車の運転まで自立する事ができました。この自立が達成できた背景には、「この人生は誰の人生でもない、自分の人生だ：障害から逃げてはいけない」と叱咤して頂いた、ある職員の方の言葉がありました。その言葉が僕の糧となった事は言うまでもありません。

またセンターでは多くの友達と

知り合う事が出来ました。この友達に、僕にどれだけ心強く、また不安な気持ちを取り除いてくれたことかわかりません。互いに切磋琢磨し厳しい訓練と一緒に頑張る事ができました。センターでの生活において、自立の獲得は勿論嬉しいですが、それ以上に自分の事を心底一生懸命に考えて下さる職員の方々、また多くの友達と知り合えた事が、現在の自分の人生にとてもプラスになっている事と思っています。

これからもセンターでの経験を忘れず、1分1秒を大切に奮励努

力していきたいと思っています。「全てが失われたとしても、まだ未来が残っている。」ボヴィー（作家／米）より





スタッフ紹介

PT・OT



入浴や排泄動作などの日常生活上のできないことや調理・買い物などの家事動作を利用者と一緒に考え、できるような工夫や練習をしています。

また、積極的な社会参加に向けて公共交通機関の利用、自動車運転の習熟練習なども行い、利用者が今後の具体的な生活イメージを持ち安心して退所できるよう日々取り組んでいます。

看護師



訓練センター医務室は、日勤看護師5名、夜間専門看護師8名で利用者の健康管理を主としています。私たちは、いつも太陽の方を向いているひまわりのように、利用者のほうを向き、笑顔で対応できる医務室看護師でありたいと思っています。

支援員



利用者が希望する生活の実現に向けて個別支援計画を策定し、実践します。訓練プログラムの日常生活場面での支援の基本姿勢は「見守り」を心がけています。利用者ができることは声をかけて見守りし、必要な部分のみ介助しています。その継続により自立度を高めていきます。

利用者は、いろんな経験を積んでこられて目標も様々です。支援にあたり、時には「しんどいな」と思うときがあります。そんな場合でも逆にみなさんからの「声かけ」により元気を回復させてもらっています。

スタッフ一同スクラムを組み、利用者がよいゴールを迎えられるよう支援していきます。

「第20回全国車いすマラソン大会」の参加報告

9/28(日)に兵庫県篠山市で開催された同マラソン大会に訓練センター利用者6名が参加しました。少し肌寒い氣候でしたが、みんな元気にハーフラソン(21.0975km)完走にむけてスタートを切りました。途中、3カ所(6.8km、13.3km、18.2km地点)に閉門があり、それを時間内に通過する必要があります。そして見事、その閉門を乗り越えて完走者2名を出す結果となりました。また、ほかの4名も自己目標をクリアすることができました。沿道の声援をいっぱい受け、ひとの温かみにも触れることができて充実感に満ちた1日となりました。



障害者スポーツ交流館 (体育指導課)

体育指導課は体育指導員5名を中心にリハビリテーション施設を利用する方々への体育訓練指導をしています。健康づくりを目指し、日常生活および社会参加を少しでも簡便にできるように体力や運動習慣を身につけることを目的に車いす操作の技術向上、レクリエーションスポーツ、ストレッチ、トレーニング、体力測定などを行っています。

また、当交流館は社会体育施設として

の機能も有しているため、リハビリテーションと社会体育の接点を結び、生きがいや仲間づくりのコミュニティスポーツの場としての機能も持ち合わせています。



アリーナ



体育館トレーニングルーム

平成19年度利用終了後転帰先

(平成19年4月1日から平成20年3月31日)

就職(復職・自営含)	8名
他施設移転	9名
家庭復帰	48名
進学(訓練校・復学含)	10名
その他	1名
計	76名

編集後記

はじめまして自立生活訓練センターです。このたび機関誌を通じてみなさんにお目にかかることになりました。訓練センターのことをもっと知っていただきたくて業務内容はもちろんのこと、利用者(OB)のお話なども紹介していきます。また来年の春にお会いできると幸いです。楽しみにしていただければ幸いです。

「ほっ」とする宿、浜坂へいらっしゃい
たまには温泉でゆったりしましょ。

12600

*この記事をお持ちいただきましたお客様(平日宿泊利用に限る)にはワンドリンクサービスいたします。

障害者・60歳以上のお客様

1泊2食(おすすめコースをご注文の場合)

浜坂温泉保養荘

☎0796-82-3645

〒6696702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775番地
<http://www.hwc.or.jp/hamasaka>



泊まるなら、保養荘が断然お得です!



*写真はぜいたくコースになります。